



一つの命が誕生した日 鬼北の美味で盛大にお祝い

澄み渡る青空が広がった2月1日、道の駅森の三角ぼうしで「鬼のモニユメント除幕式&きじ鍋まつり」が開催されました。

午前9時、来場者らが固唾をのんで見守る中、会場内に響き渡ったのは、広見中学校吹奏楽部の生徒らと鬼北町役場職員有志らで結成されたコーラス隊による合唱。歌の盛り上がりとともに、造形作家の竹谷隆之氏を始めとする代表者らの手によって白い幕が引かれると、ついに「鬼王丸」が観客の前に姿を現しました。威圧するかのように睨みをきかす、その威厳漂う堂々たる姿に圧倒される人々。会場内の空気は一気に高揚し、「おおー」という歓声や大きな拍手に包まれました。式典では、鬼のモニユメント製作に尽力いただいた宮脇修氏、宮脇修一氏、竹谷隆之氏の3名に感謝状を贈呈。宮脇修氏が、「これからは始まり。2人でも3人でも若い人が「鬼のまちづくり」に関わってほしい」と挨拶しました。

式典終了後、「鬼王丸」を主人公とした絵本「鬼のおくりもの」の物語を、紙芝居で紹介。広見中学校生徒らが熱演を披露しました。

そして、さらに会場を盛り上げたのは、鬼北町の太鼓集団「魁」による力強い演奏。鬼王丸と同じく鬼ヶ城山に住んでいる「子泣かし天狗まつり」でお馴染みの天狗が登場し、大太鼓を打ち鳴らして、鬼王丸の誕生を祝福しました。また、お祝いとして行われた「もちまき・豆まき」。「鬼のまち」として鬼を追い出すわけにはいかない」と、掛け声を「福はうち、鬼もうち」に変えて行われ、大盛況となりました。



同時開催された「きじ鍋まつり」では、きじ鍋やきじの串焼きなどのきじ料理はもちろん、町内外からさまざまな店舗が出店。訪れた人たちは思わずあちらこちらに目移りしながら、それぞれの美味しさを堪能していました。

この日、「鬼王丸」の前には、終始記念撮影する人たちの姿。「鬼王丸は鬼北町の守り鬼だ」そんな存在になる日も、そう遠くはないかもしれません。

